コロナ禍における 74 回生修学旅行
－感染防止対策と思い出づくりの両立－

第 3 学年担任　佐　藤　健　太

1. はじめに

2019 年度末より新型コロナウイルス感染症（以下，コロナ）の流行及び政府による緊急事態宣言の発出により，全国の学校で休校やオンライン対応，行事・部活動の中止等，様々な教育活動の制限を余儀なくされた。年度が替わり 2021 年度より，まん延防止措置や緊急事態宣言下においても感染防止対策を施した上で，授業や部活動，行事を徐々に再開し，段階的に通常の学校生活を取り戻していくこととなった。

例年，本校では 3 年次の 4 月中旬に 4 泊 5 日で修学旅行を実施している。高校生にとって修学旅行は様々な学校行事の中でも，その思い入れや位置付けは大きく，一生の思い出としていつまでも記憶に刻まれるようなものである。しかし，2020 年度は多くの学校・教育委員会・知事らが修学旅行・宿泊行事の中止の判断や要請をし，本校でも 1 つ上の学年（73 回生）がやはり中止に追い込まれた。2021 年 9 月 30 日に緊急事態宣言が解除されるまでの上半期中は全国的に上記のような状況が続くこととなった。そんな中，当学年（74 回生）では 2020 年度にほとんどの行事・部活動の大会やコンクールが中止となり，生徒たちが辛い思いや我慢を強いられてきたことを鑑み，何とか修学旅行だけは実現させてあげたい，と担任団が知恵を絞り，実施に向けて模索を続けることとなった。ところが，修学旅行は他の教育活動と異なり，宿泊を伴うこともさることながら集団での移動･食事･体験活動等，至るところに感染リスクが潜んでいる。さらに，保護者の理解や同意，旅行中に発症者が出た場合の対応，予測できない感染状況等に戦々恐々しつつ，実施に向けてクリアしなければならない難題が数多く待ち構えていた。

本稿では，修学旅行実施までの苦難の道のりを記録としてまとめるとともに，コロナ禍における宿泊行事のあり方やその効果について言及したい。

2. 修学旅行の教育的位置付け

2.1.　学校行事における修学旅行の果たす役割

まず，修学旅行の教育的な位置付けについて確認しておく。ご存知の通り，修学旅行は特別活動の「学校行事」に含まれる。また，学習指導要領 *1 では学校行事の内容として，(4) 旅行・集団宿泊的行事 に次の通り述べられている。

> 平素と異なる生活環境にあって，見聞を広め，自然や文化などに親しむとともに，よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

2.2.　修学旅行のねらい

続けて，旅行・集団宿泊的行事のねらいが以下のように示されている。

> 校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して，学校における学習活動を充実発展させる。また，校外における集団活動を通して，教師と生徒が寝食を共にすることによって，教師と生徒，生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験し，楽しい思い出をつくることができる。さらに，集団生活を通して，基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み，集団生活のきまりや社会生活上のルールについて考え，実践し，互いを思いやり，共に協力し合ったりするなどのよりよい人間関係を形成しようとする態度を育てる。
>
> 旅行・集団宿泊的行事においては，例えば次のとおり資質・能力を育成することが考えられる。
>
> ○豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義を理解するとともに，校外における集団生活の在り方や社会生活上のルール，公衆道徳などについて理解し，必要な行動の仕方を身に付けるようにする。
>
> ○日常とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方や公衆道徳について考え，学校生活や学習活動の成果を活用するように考えることができるようにする。
>
> ○日常とは異なる環境や集団生活において，自然や文化・社会に親しみ，新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとする態度を養う。

旅行・集団宿泊的行事が上記のような教育的意義や価値を有し，その機会を生徒に与え，享受させようとするのが修学旅行の果たすべき役割であり，学校・教員はそのことを念頭に置いて準備・指導しなければならないといえよう。

3. コロナ前のお茶高の修学旅行

3.1.　行き先（方面）の選定

ここからは，本校の修学旅行について紹介する。お茶高の修学旅行は1年次から準備を始める。まず学年担任団（一学年3クラス編成：3名の担任と1名の副担任で構成）で日程や行き先，大まかな行程といったアウトフレームを企画する。10年以上前は行き先から生徒に相談させた学年もあり，海外に行った例もあったが，2014年度にSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されたのを機に，行き先を沖縄に固定し，修学旅行とSGHの探究活動とをリンクさせてフィールドワークを行い，帰京後に学習の成果を英字新聞にまとめる活動を行っていた。現在，5年間のSGH研究期間は終了したが，その後も修学旅行の行き先を沖縄に据えたまま実施している。

沖縄をフィールドとする理由として，海外と比べ安心・安全であること（海外は治安をはじめ社会情勢によって不安定な要素があること），歴史・文化・平和・自然環境・アクティビティ等の幅広い学習テーマがあること，歴代の学年の実施歴や蓄積がある

こと，教員の引率経験があること等が挙げられる。また，沖縄自体が言わずと知れた観光地であり，年間を通じて全国から多くの修学旅行生が訪れ，先方が受け入れに慣れていることも理由といえよう。

3.2.　旅行業者の選定

業者の選定は教員が行う。最終的には大学の財務課の了承が必要となるが，学年団が複数の旅行業者に希望条件を伝えて相見積もりをとり，教員会議における協議の上，決定（確認）している。費用面だけでなく，行程の動線，宿泊先のグレード，体験内容の充実さ，過去の採用実績，添乗員の力量等を総合して判断している。

3.3.　行程の検討・相談

2 年次になると 4 泊 5 日の具体的な行程を決定していく。教育的価値の高い見学・訪問すべき名所や体験先（現在は消失している首里城をはじめ，ガマ，民泊体験等）については，旅行業者選定時に教員側が指定し，あらかじめ行程に組み込んでいる。それ以外の自由散策や希望選択制のアクティビティ等については，生徒たちに預け，生徒自身で調べたり，検討・相談したりして決めさせるようにしている。

3.4.　事前学習

行程が固まると，行程内容に関連した事前学習を行う。文献を読んだり，テーマを決めて調査・レポートにまとめたり，外部講師を招いて平和学習の講話を聴いたり，HR を活用しながら事前学習を通して，沖縄に関する知識を吸収しつつ，旅行に向けて気持ちを高めていく。

3.5.　旅行委員の役割と教員の指導

各クラス 3 ～ 4 名で構成される旅行委員の生徒は教員と一般生徒との橋渡し役として，教員側からの指示や連絡をクラスにおろすほか，必要に応じて委員会の開催，クラスでの話し合いや相談・決め事の進行，しおりの作成，レクの検討・運営，旅行中の点呼や挨拶，伝達事項の連絡等を行う。本校の教育方針である「自主・自律」の精神を養えるよう，旅行委員ができることはなるべく生徒に委ね，教員はその活動を支援しつつ，失敗も経験の一つとして極力手や口を出さずに見守るようにしている。

4. 73 回生（2020 年度）の修学旅行中止を受けて

4.1.　73 回生のケース

先にも述べたように，73 回生が 2020 年 4 月中旬に実施予定だった沖縄修学旅行は中止となった。振り返ってみると，同年 2 月より日本国内でコロナ感染が徐々に広がり始め，本学では 2 月下旬から大学及び附属学校園において休校措置がとられることとなった。その後，ご承知の通り 3 月に入ってから政府より全国一斉休校が発出され，事実上，修学旅行は中止を余儀なくされた。73 回学年団によると，キャンセル料は出発の 1 か月前から発生するとのことだったが，全国一斉休校となった段階で中止を決め，生徒・保護者にその旨を伝えた。なお，キャンセル料はかからなかったものの，旅行企画料のみ 1 人約 1 万円を負担してもらったとのことだった。

4.2.　74 回生の反応

一方で，74 回生たちは 1 つ上の学年（73 回生）の先輩たちの修学旅行中止を目の当たりにして，1 年後とはいえ自分たちの学年も旅行に行けないのではないか，といった不安の声が聞かれた。「先のことは分からないが，準備なくして実行はできない。」と生徒たちに伝え，実施の可否が不透明な中，事前学習を進めていくこととなった。

4.3.　74 回生の確定事項

先に述べたように，74 回生もまた 1 年次より旅行委員を中心に修学旅行の準備を進めてきた。コロナ禍になる前に確定していたことは，旅行業者，日程 2021 年 4 月 13 日（火）～ 17 日（土），行き先は沖縄で行程が以下，図 1 の通りである。

ご 旅 行 行 程 表

近畿日本ツーリスト
株式会社近畿日本ツーリスト首都圏
東京第1教育旅行支店
〒102-0074　東京都千代田区九段南2-3-14　九段南ビル7階
TEL:03-6675-3788　FAX:03-6675-9507

お茶の水大学附属高等学校 様

行 先	沖縄	旅行日	2021年4月13日(火)～4月17日(土) 別紙カレンダー参照	4泊5日	参加人員 3クラス 生徒120名＋先生6名	提 出 日 2019年11月18日	支 店 長 担 当 者	矢部国俊 権田絵美
月日曜	行　程							宿 泊 施 設
1	■大きな荷物は前々日までに搬送 ※期間を設定して、ご自宅への集荷→1日目のホテルへ運搬も可能です。 【見学】【昼食】　（25分）　（40分） 航空機　貸切バス　【元ひめゆり学徒隊証言ビデオまたは次世代による平和講話も可】 羽田空港 ✈✈✈✈✈✈ 那覇空港＝＝＝＝＝ ひめゆりの塔・ひめゆり資料館 ＝＝＝＝＝＝ ガマ見学 ＝＝＝＝＝＝＝＝ ホテル 8:15　10:55　11:20　12:00　14:00　14:30　15:30～16:00　17:00 ※糸数壕、クラシンジョウガマなど							【南部・中部宿舎】 ザ・ビーチタワー沖縄
2	【沖縄料理ブッフェ】　平和講話可 講話1時間＋見学 ホテル ＝＝＝ 佐喜眞美術館 ＝＝＝ 嘉数高台公園 ＝＝＝ 東南植物楽園 ＝＝＝ 沖縄県平和記念資料館 ＝＝＝ ホテル 9:00　9:20　10:30　10:50　11:30　12:00　13:00　14:00　16:00　17:00 エイサー鑑賞できる昼食レストランのご案内も可能です。							
3	【民泊】 宿舎 ＝＝＝ 本部港 ～～～ 伊江島 … 開村式 … 家業体験他 … 民泊△ 10:30　11:00　11:30							【伊江島】 民泊体験
	【ホテル泊】 宿舎 ＝＝＝ 金武町で日帰り民泊体験（昼食・夕食含む） ＝＝＝ ホテル宿泊△							【中北部】 ホテルオリオンモトブリリート&スパ
4	【民泊】 民泊 … 家業体験…（昼食含む）… 離村式 … 伊江港 ～～～ 本部港 ＝＝＝ 13:00　13:30			【選択コース】別紙		＝＝＝ ホテル△ 夕食後、 全体研修実施予定		【中北部・全員】 ホテルオリオンモトブリリート&スパ
	【ホテル泊】 宿舎 ＝＝＝ 【選択コース】別紙							
5	貸切バス　【昼食各自】　航空機 宿舎＝＝＝＝＝識名園or玉陵or沖縄県立博物館＝＝＝＝＝国際通り班別研修＝＝＝＝＝那覇空港✈✈✈✈✈✈羽田空港 8:30　13:00　14:30							
	JR ━━━ 私鉄++++ バス＝＝＝＝ タクシー＝＝＝＝ 飛行機✈✈✈ 船～～～～ 徒歩…… 旅館泊△ 車中泊▲ 食事 食 弁当 弁 休憩 休							

航空便は、予定です。 業者決定後、航空会社からの回答を待って確定となります。

4 日目選択コース例

① OIST にて研修（80 名まで）
② Gala 青い海 サンゴ畑環境学習・苗作り体験（30 名まで）
③ 沖縄興南高校 アクト部との交流・ディスカッション
④ KOZA 街歩き・ディスカッション
⑤ 慶佐次川マングローブ自然体験
⑥ 国際海洋環境情報センター GODAC にて海洋科学講座
⑦ 沖電開発（株）水産養殖研究センターにてサンゴ苗作り，養殖施設視察
⑧ 工場見学ツアー（いくつか組み合わせ）オキハム工場・スッパイマン工場 ぬちまーす塩工場見学等
⑨ 美ら海水族館見学
⑩ 沖縄宇宙通信所施設見学

図 1　当初計画していた 4 泊 5 日沖縄修学旅行行程案

5. コロナの感染状況と旅行に向けた準備

5.1. コロナ感染状況と政府による緊急事態宣言・まん延防止重点等重点措置の発令状況

東京都と沖縄県における 2020 年 4 月～ 2022 年 2 月の緊急事態宣言（以下，宣言）及びまん延防止等重点措置（以下，まん防）が発出・発令されていた期間 *2 を図 2 に示す。両期間中は都道府県をまたぐ不要不急の外出・移動は自粛するよう，政府・自治体から要請されていたのはご承知の通りである。

東京都に発出・発令された宣言・まん防
［緊］2020/4/ 7（火）～ 5/25（月）
［緊］2021/1/ 8（金）～ 3/21（日）
［防］2021/4/12（月）～ 4/24（土）
［緊］2021/4/25（日）～ 6/20（日）
［防］2021/6/21（月）～ 7/11（日）
［緊］2021/7/12（月）～ 9/30（木）
［防］2022/1/21（金）～ 3/21（日）

沖縄県に発出・発令された宣言・まん防
［緊］2020/4/16（木）～ 5/14（木）
［防］2021/4/12（月）～ 5/22（土）
［緊］2021/5/23（日）～ 9/30（木）
［防］2022/1/ 9（日）～ 2/20（日）

図 2　東京都及び沖縄県に発出された緊急事態宣言とまん延防止等重点措置期間

5.2.　大学にコロナ対策室が設置（2020 年 3 月）

日本でも 2020 年にコロナの流行が始まると，3 月下旬には大学にコロナ対策室（以下，対策室）が設置された。大学をはじめ本学の各附属学校園が通常授業以外の教育活動を行う際には企画書を作成し，事前に対策室へ申請の上，許可を得ることが条件となった。

5.3.　事前学習開始（2020 年 6 月～）

74 回生は一斉休校明けの 2020 年 6 月から修学旅行に向けた本格的な準備を開始した。先輩から代々引き継がれている沖縄の参考文献 *3 を 1 人 1 冊配布し，各自調査したい沖縄に関するテーマを 1 つ決め，調べ学習を行った（資料 4）。例年であれば，外部講師を招いての平和学習やグループワークを行っていたが，感染リスクや休校による授業の遅れを取り戻すこともあり，満足に実施することができなかった。

準備を進める中，生徒からは「修学旅行はどうなるんですか？」「本当にできるんですか？」といった問い合わせや「どうせ行けないのに…（事前学習をすることへの不満）」といった半ば諦めの声が聞こえてくることもあった。

このころ，緊急事態宣言の再発出はなかったものの，日々の感染者数の増減に世間は一喜一憂し，未知のウイルスを相手に感染防止対策に努めながら教育活動を両立させていくのに精一杯だったことが思い出される。生徒側にも教員側にも，腰を据えて修学旅行を考える余裕がなかったというのが本音といえよう。

5.4.　旅程の短縮決定（2020 年 11 月）

そして修学旅行まで，あと半年を切った 11 月。相変わらずコロナのくすぶる状況が続く中，学年団は沖縄での実施可能性を模索していた。対策室とは懸念事項やクリ

アすべき課題についてやりとりを続け，当月の教員会議では安全面・管理面・有事対応等を考慮し，当初予定していた4泊5日の行程のうち伊江島・本島での民泊・日帰り民泊体験を取り止め，3泊4日に短縮することを提案した。他にも移動時のバスの台数を倍に増やし，分散乗車することで密を回避する手段の検討や保護者への伝達・留意事項，訪問・滞在先での具体的な感染防止対策等についてまとめた文書を教員会議に諮った。生徒･保護者にも4泊から3泊に日数が減ることを決定事項として伝えた。

5.5.　沖縄を取るか，旅行を取るか（2020年12月）

さらに，担任団は最悪の事態を想定し，沖縄での実施以外に別方面での代替案について水面下で検討を始めることにした。これは，沖縄県自体が宣言発出・まん防発令となってしまった場合に旅行が即中止となってしまうことや，沖縄の場合は移動手段が飛行機しかなく，有事対応に不安があること等が理由である。また担任団として，これまで様々な行事が中止となっている現状を鑑みて，修学旅行は何とか行かせてあげたい。もちろん，沖縄に行きたいのは山々だが，沖縄にこだわらず実施を最優先に検討すべきではないかという思いが念頭にあったのも事実である。ただ，こちらの考えばかりが先行し，生徒の意向を聞いていなかったため，12月に入ってからあらためて生徒の希望を聞くことにした。

A：万が一，中止になってもよいから沖縄に行きたい！

B：泊数減・行き先を変更してもよいので，修学旅行を実施したい！

そこで，上記AかBのうち希望するどちらかに挙手させたところ，各クラスともAを支持したのが6～7割に上った。しかし，現時点で沖縄への気持ちが強いものの，今後のコロナの感染状況によっては本当に沖縄に行くことが現実的ではなくなることが想定された上，行き先よりも旅行の実施に生徒の優先度がシフトすることも考えられたため，代替案の可能性を視野に入れつつ，継続審議としていくこととした。

5.6.　コロナ対策室とのやりとり（2020年10～12月）

また，12月末にはこの年に全て中止となった学校行事である輝鏡祭（体育祭・文化祭・ダンスコンクール）の代替行事の開催にこぎつけた*4。私はその顧問として運営に携わっていたため，10月頃から対策室と交渉を重ねてきた経緯があった。修学旅行の実施についてもその可否の最終判断を下すのは大学の対策室であったため，早い段階から代替行事と並行して修学旅行においても対策室に何度も足を運び，実施に向けて相談を重ねていった。しかし，実施の可否については沖縄であろうと，別の行き先であろうと出発前の感染状況次第となるため，この段階ではまだ判断できないとの回答だった。

5.7.　緊急事態宣言の発出と沖縄断念（2021年1～2月）

修学旅行まで，あと3か月余り。冬休みが明け，3学期が始業した矢先の2021年1月8日（金）～東京都には2回目となる緊急事態宣言が発出された。同時に，我々は沖縄への旅行の可能性は限りなく低くなるどころか，果たして出発日までに感染が落ち着き,宣言が解除されるのか？2年連続で修学旅行の中止もあり得るのではないか？

といった危機感を募らせていた。同じくこのころ，都立学校ではこの時期に延期していた修学旅行を再延期または中止とするよう都知事より要請があったほか，他の国立附属校に確認しても軒並み実施を見合わせているとのことだった。いよいよ修学旅行自体の雲行きが怪しくなり始め，生徒・教員ともに不安は募るばかりだった。

旅行業者からは2か月前までであれば，行き先変更が可能とのことで，旅行委員とともに別方面の旅行や日帰り旅行，遠足といった代替案について本格的に具体策を考えていくこととなった。別方面の行き先候補としては，有事の際に保護者が公共交通機関以外でも迎えに来られる範囲を前提とし，「関東近県」とした。また，宿泊の場合は日数を3泊4日からさらに1泊減らし，2泊3日に短縮することとした。さすがにこの時には，「沖縄に行きたい！」とわがままを言う生徒はいなかった。沖縄へのこだわりよりも「旅行ができれば御の字」と完全に軸足が置き換わっていた。この話は1月にオンデマンドで行った保護者会において，2泊3日に短縮あるいは日帰りの旅行とし，関東近県を行き先に変更すること，キャンセル料は出発1か月前から発生すること等を保護者に伝達した。こうして，やむなく沖縄旅行を諦め，関東近県への旅行に舵を切ることとなった。

6. 代替旅行の検討

6.1. 行き先の検討

急遽，方針転換となり，沖縄の代わりにコロナ禍でも実施可能な旅行を残り3か月を切ったこのタイミングで検討していくこととなった。早速，旅行業者に依頼し，関東近県もしくは東京から足を伸ばせる範囲で，教育旅行におすすめの方面ならびにこれからでも宿をおさえることのできる地域を複数箇所挙げてもらった。そこから旅行委員で手分けをし，候補に挙げられた方面について下調べを行い，3日間の具体的な行程を検討させた。ここで挙がった候補先は以下の9方面である。

福島 ・ 茨城 ・ 日光 ・ 埼玉 ・ 千葉北部（成田周辺）・ 千葉南部（館山周辺）・ 箱根 ・ 山梨 ・ 軽井沢

旅行委員がそれぞれの方面の魅力や見どころについて，学年の生徒を前にオンラインでプレゼンを行い，生徒がその中から行きたい方面を2つ選んで投票した。投票の結果，山梨126票，軽井沢123票，日光41票，箱根34票，福島16票，千葉6票，埼玉3票，茨城0票となった。また，旅行先で何をしたいか，見たいか，食べたいかといった希望もあわせて聞いたところ，「綺麗な星空が見たい」「いちご狩りがしたい」「体験活動がしたい」といった声が聞かれた。

そこで，得票上位の山梨と軽井沢はどちらもバス移動の圏内に多くの自然・史跡・博物館等，教育的価値のある観光名所が多く存在し，要望にあった声も叶えられそうなことから，この2方面に絞って検討していくことにした。

6.2.　宿舎の検討

宿舎は旅行業者からいくつか提案してもらい,その中から選択することとした。また,宿舎の選定は感染防止対策や生徒の安全管理上の問題もあるため，教員主導で行った。

宿舎選びの条件として，以下の 6 点を旅行業者に伝えた。

・全館貸切可能（あるいはフロア貸切等，同等な措置）

・全員が集合できるホールなどの大きな収容スペースがある（講話や振り返りで使用）

・密を避けられ，感染防止対策と生徒管理がしやすい

・清潔感があり，食事が美味しい

・1 泊おおよそ 12,000 円以内

・当初予定していた 3 泊 4 日の日程内の 2 泊 3 日（なるべく 4/14 水～ 16 金）に宿泊可能

ただ，4 月中旬のこの時期は，他校が新入生のオリエンテーション合宿をはじめ宿泊行事を組んでいるところが多く，宿舎側も常連校の予約を優先しているため，2 か月前でこちらの要望に合う宿が見つかるか心配だった。コロナ禍におけるキャンセルも 1 か月前のギリギリに判断する学校が多 いようで，この時点ではどこも予約が飽和状態だった。

後日，業者より山梨方面で富士五湖沿いの宿の提案があったが，グレードが低かったり，ホールがなかったり，予算と合わなかったりした。一方，軽井沢はプリンスホテルのコテージが提案された。グレードや予算に合致し，本館には結婚披露宴や研修会が行われるような多目的大宴会場を完備し，感染防止対策面でも有効であること，広大な敷地に佇むコテージは一部エリアを丸ごと貸切とし，一般利用客や他団体客などから隔離してもらえること等，特段の配慮と対応をしてもらえたため，迷わずこちらをチョイスすることにした。かくして，行き先は軽井沢に決定した。

6.3.　行程の検討

宿を仮おさえした後は，2 泊 3 日の行程内容を検討した。こちらは，旅行委員の事前調査も参考にしながら，生徒の意見も踏まえて旅行業者と行程を組んでいった。行程を考える際に，地域理解を第一に，これまで学校の授業で学習した地理，歴史，理科,体育,家庭科,課題研究などと絡めて学習の要素を総合的に取り入れることとした。最終的に確定した行程を右に示す（図 4）。

具体的には，世界遺産である富岡製糸場の史跡見学，群馬県名産品の工場見学，職人さんとの伝統工芸体験，アイスリンクでのカーリング体験，浅間山の噴火跡地である鬼押出し園・沼田市の河岸段丘の観察，いちご狩り等，地域の歴史・自然・産業・食文化・ウインタースポーツ等を理解するコースとし，あわせてコロナ禍における観光地の現状を把握することもねらいとした。

6.4.　生徒の動き・準備と教員会議への報告

1月から本格的に検討に乗り出した代替旅行だったが，ものの1か月半の間に行き先，宿舎，行程まで教員だけでなく生徒とともにスピーディーに決まっていった。旅行委員を稼働させながら，検討事項を一般生徒に下ろし，ホームルームや終礼を使って，クラス単位で部屋割や行動班編成，バス座席決め，体験活動の選択等を進めていった（図3）。また，教員会議において逐一進捗状況を報告し，情報共有を図った。

図3　ホームルームでの準備の様子

1号車　蘭組 39名
2号車　菊組 39名
3号車　梅組 41名

ご旅行行程表

お茶の水大学附属高等学校　様

近畿日本ツーリスト
株式会社近畿日本ツーリスト首都圏
東京第1教育旅行支店
〒102-0074　東京都千代田区九段南2-3-14　靖国九段南ビル7階
TEL:03-6675-3788　FAX:03-6675-9507

行先	軽井沢	旅行日	2021年4月14日(水)～4月16日(金)	2泊3日	参加人員 3クラス 生徒119名＋先生5名	提出日 2021年4月6日	支店長	矢部国俊
							担当者	権田絵美
月日曜	行程							宿泊施設
1	途中休憩1回　1号車蘭組＆2号車菊組　※音声ガイド　こしね汁などの富岡郷土料理 学校 ========== 富岡製糸場 ===== ホテルアミューズ富岡にて昼食 === こんにゃくパーク === ホテル 8:30　10:30　12:00　12:15　13:00　13:15　14:15　15:15 3号車梅組　※音声ガイド 学校 ========= こんにゃくパーク ==== ホテルアミューズ富岡にて昼食 === 富岡製糸場 ===== ホテル 8:30　10:30　11:30　11:45　12:30　12:45　14:15　15:15							軽井沢プリンスホテル ウエスト コテージ利用 1コテージ8名利用 ×15棟
2	1号車 蘭組＋梅組 40名　【蘭組】　体験90分 ホテル ===== たくみの里 ====== （昼食）===== 軽井沢アイスパーク(カーリング体験) === 旧軽散策 === ホテル 7:50　9:40　11:00　11:15　11:45　13:30　15:00　15:20　17:05　17:15 3号車 蘭組＋梅組 40名体験後、工場・お土産施設等見学　【梅組】 ホテル ===== 月夜野ビードロパーク …（昼食）======= 旧軽散策 ===== 軽井沢アイスパーク ======== ホテル 8:00　9:40　11:15　12:00　13:40　15:10　15:30　17:00　17:15 2号車 菊組　39名　バス：月夜野ビードロパーク→たくみの里→月夜野ビードロパーク→旧軽 ホテル ==== 軽井沢アイスパーク ====== （昼食）====== 体験(別紙参照) ===== 旧軽散策 ==== ホテル 8:30　8:50　10:30　12:10　12:50　13:10　14:40　16:20　17:05　17:15							
3	到着後、クラスごとに説明→自由見学　トイレ休憩 ホテル ===== 鬼押出園 ===== 原田農園(昼食+いちご狩り) === 河岸段丘スポット === らら ん藤岡立寄 === 学校へ 8:30　9:00　10:00　11:40　13:30　13:45　14:00　14:50　15:20　16:50							
	JR ━━━ 私鉄++++ バス==== タクシー==== 飛行機✈✈✈✈ 船～～～ 徒歩…… 旅館泊△ 車中泊▲ 食事 食 弁当 弁 休憩 休							

図4　軽井沢2泊3日修学旅行行程表（最終版）

7. コロナ対策室との協議と感染状況

着々と代替旅行の詳細が決まっていく中，キャンセル期限のタイムリミットも間近に迫っていた。世間の感染状況とにらめっこしながら，対策室との協議が対面やメールで活発に進められた。この段階で，“旅行出発日に緊急事態宣言が発令されていれば，間違いなくGoサインを出すことはできない”ことだけ伝えられていた。しかし，対策室からは実施不可の返答ではなく，実施に向けてできる限りの感染防止対策を施すよう指示された。

3月に入ると，コロナの感染状況が徐々に落ち着きを見せてきた。そして，3月22日に東京都の緊急事態宣言が解除され，修学旅行の実施に追い風が吹き始めた。

8. 下見の実施と旅行委員への指導

宣言が解除された3月22日，学年団で訪問・滞在予定の場所・食事会場を中心に，日帰りでの実地踏査を実施した。特に，感染防止対策や生徒の動線等を入念に確認し，こちらの要望や懸念事項を伝えた。下見後は旅行委員と情報を共有し，出発までに決めておくことや用意しておく物，委員内での仕事分担等を指示したり，食事メニューや成分表から生徒・保護者にアレルギーの有無を確認したりするなど，本番に備えていった。

9. 感染防止対策

先にも述べたように，旅行では様々な場面に感染リスクが伴う。今回の修学旅行で心掛けた感染防止対策を以下に示す。

9.1. 基本方針

コロナ感染防止対策として，「不織布マスクの着用」「三密防止」「手洗い・消毒」の3つを徹底事項とした。ただし，マスクの着用は食事，入浴，就寝，写真撮影時以外とし，マスクを外す際は会話をせず，屋内の場合は換気に努めることとした。これは対策室からも普段の学校生活からしっかりと指導するよう強く言われてきたものであったが，旅行という非日常的な空間や開放的な気分から，上記3項目が疎かにならないよう，教員の指導だけでなく生徒同士でも注意し合えるくらいの意識の高さで臨んでほしいと，あらためて釘を刺した。

9.2. バス車内

移動はバスを利用するが，はじめは三密を回避するため，クラスで2台のバスに半分ずつ分乗することを検討した。しかし，バス車内は常時換気がなされていることや隣席の間にアクリル板が設置されていることなどから，クラス1台の配車とすることとした。また，日替わり席や座席移動，カラオケなどの大声を出すバスレクを禁止とした。その代わりに，クイズや手拍子，映画・音楽鑑賞といったレクを推奨した。

9.3. 原則クラス単位・固定メンバー

修学旅行というと，クラスの垣根を越えて交流を深めることも意義の一つとなるはずだが，今回は一部体験活動の際にクラスが混在する以外は3日間ともクラス単位での行動を原則として，不特定多数の生徒がなるべく接触しないようにすることとした。宿泊するコテージもクラス内でグループを編成するように指示し，コテージ間の移動もなしとした。

9.4. 飲食時の注意

飲食の際はマスクを外すため，感染リスクが高まる。そのため，食事中は黙食を徹底するよう指示した。また，初日と2日目のホテルでの夕食はそれぞれ和食と洋食のテーブルマナー講座を導入し，あえて会話ができない環境とした。食事会場の座席はできる限りディスタンスをとり，向かい合わないような配置を要望した。円卓の場合は念のため，座席間に仕切り板を設置してもらうよう依頼した。食事の提供方法は卓

盛りを原則とし，ホテルの朝食ビュッフェについては自身で配膳するのではなく，スタッフによって取り分けてもらう形式とした。また，自由散策時の食べ歩きをはじめ最低限の水分補給を除いてバスやコテージ内での飲食も禁止とした。お菓子等の間食を控えるとともに，どうしても食べたい時は屋外に出て黙食するよう指導した。とにかく，「マスクを外したら，しゃべらない」を合言葉に，各自行動に留意させた。

9.5.　トイレ・風呂・洗面所・ベッド使用時の注意

風呂・トイレ・洗面スペースは2名で1つを共用とし，風呂・シャワーの使用後はバスタブの湯を抜き，洗い場とともに十分に洗い流すように，またトイレは学校での利用時同様，常時喚起し使用後は蓋を閉め，清潔に利用するよう指導した。洗面スペースでは隣合って歯を磨いたり，ドライヤーを一緒に使ったりせず，単独で使用するようにした。加えて，ベッドは1人1台とし，ベッドの移動や交換，共有はせず，2泊とも同じものを利用するように指導した。

9.6.　フェイスシールドの着用

クラスカラーである蘭組：青色，菊組：黄色，梅組：赤色のラインの入ったフェイスシールドを1人1つ用意し，2日目の伝統工芸体験と最終日のいちご狩りの際に着用させた。伝統工芸体験は指導してくださる地元の職人さんにご高齢の方が多いことと対面での活動場面が増えることから，お相手の方への配慮も含めてマスク＋フェイスシールドを組み合わせ，いちご狩りは常時マスクを外したままになることから，フェイスシールドのみを着用することとした。他にも，生徒自身の判断で感染が気になる場面があれば，フェイスシールドを着用してよいこととした。

9.7.　日常の健康管理

出発2週間前（春休み中）から健康観察票（図5）による健康管理を実施した。

日常の学校生活でも毎日の検温と報告を行わせているが，出発前2週間においては，旅行の参加可否にかかわるため，各自が健康状態を把握できるよう，また記録として残るようにした。

旅行中は毎朝，このカードを回収し，担任がチェックの上，返却した。旅行後も経過観察が必要なため，継続して観察と記録を行い，万が一に備えて観察票を一定期間保管することとした。

健康観察票

●出発2週間前からmoodleへの検温記録とあわせて、こちらの健康観察票にも記録してください。
●4/8～旅行最終日の期間は、学校で記入状況をチェックしますので、忘れずに持参してください。

年　組　番　名前
Year　Class　No.　Name

月 Month	日 Date	曜日 Day	体温 Body temperature	当てはまる症状に○をつける Please select the symptoms you have. せき Cough	だるさ Languid	息苦しさ Suffocating	頭痛 Headache	味 Sense of taste	他の症状があれば記入 Other symptoms
4	1	木	・　℃						
	2	金	・　℃						
	3	土	・　℃						
	4	日	・　℃						
	5	月	・　℃						
	6	火	・　℃						
	7	水	・　℃						
	8	木	・　℃						
	9	金	・　℃						
	10	土	・　℃						
	11	日	・　℃						
	12	月	・　℃						
	13	火	・　℃						
	14	水	・　℃						
	15	木	・　℃						
	16	金	・　℃						

☆1日1回、できるだけ同じ時間（起床後すぐ等）に検温しましょう。症状についてはありのままを申告してください。出発1週間前(4/7)以降に自分自身及び同居ご家族の方に体調の異変がみられた場合は旅行に参加できません。体調管理に努めましょう！

図5　健康観察票による体調管理

10. 保護者への周知と協力依頼

これまでも述べたように，保護者には保護者会の折に進捗状況を伝えてきたが，2月下旬に最終確認となる修学旅行参加承諾書（図6）を配布した。なお，参加に際して

旅行中，生徒本人に発熱等の症状が出た場合は現地まで迎えに来てもらうことを条件とし，承諾書の提出をお願いした。また，承諾書には必ず連絡のつく緊急連絡先を2件記載してもらった。最終的に旅行の参加申込をしたのは120名中119名で，1名が不参加だった（ただし，不参加者は感染不安によるものではない）。

春休みに入る前の3月下旬には感染防止対策の基本方針と宿舎の間取り等を示し，内容をご理解いただくこと，また万が一のキャンセルの際に発生するキャンセル料の詳細について伝えることを主旨とした保護者宛文書（図7）を配布した。

第2学年保護者の皆様

2021年2月26日
お茶の水女子大学附属高等学校
校長　　吉田　裕亮

修学旅行のお知らせ及び参加承諾書についてのお願い

春寒の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、先日の保護者会でお伝えしました通り、4月に予定している修学旅行の実施可否につきまして、新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢などを踏まえ、検討を重ねてまいりました。この度、以下のような概要で修学旅行を実施させていただきたく、お知らせいたします。それに伴い、方面及び泊数に変更が生じることとなりましたが、感染リスクや万が一の際の対応等、生徒の安全を最優先しての判断であることをご理解いただきたくお願い申し上げます。このような状況下での実施となりますが、旅行会社及び現地宿泊先、訪問施設等と連携し、感染防止対策に努めながら、有意義な学習と友好を深める機会としたいと考えております。

つきましては、裏面の旅行日程および注意事項をご確認の上、**3月8日(月)までに各担任へ**以下の「修学旅行参加承諾書」をご提出くださいますようお願いいたします。健康上、特別な対応が必要な場合は右面の「食物アレルギーに関する申告書」をあわせてご提出ください。もし、出発前に本人もしくはご家族に新型コロナウイルスの陽性反応や感染者との濃厚接触が認められた場合は参加をご遠慮いただきます。また、現地で発熱等、感染の疑われる症状が出た場合にはご家族の方にお迎えに来ていただく可能性があります。なお、参加を承諾しない場合も含め、修学旅行不参加の生徒は当期間中、在宅学習（出席停止扱い）となります。

その他、ご心配・ご不明な点、ご相談等がございましたら、各担任までお尋ねください。

※緊急事態宣言の再発令、校内でのクラスター発生等、不測の事態によっては出発直前でも中止の判断をさせていただく場合がありますことをお含みおきください。

記

・日　　程　　2021年4月14日(水)～16日(金) 2泊3日　(旅行期間としていた4/12～13は通常授業です)
・集　　合　　学校中央玄関前　7時半予定
・行　　程　　裏面の旅行日程表参照（感染状況により変更の生じる場合があります）
・費　　用　　総額　約54,000円
・引　　率　　吉田校長、十九浦、佐藤、沼畑、学年外教員1名、看護師1名　　計6名

…… き … り … と … り ……

提出先：担任　　2021年3月　　日
お茶の水女子大学附属高等学校長　殿

上記の日程・費用で実施される修学旅行に参加することを

承諾します　　承諾しません　(いずれかに○)

※承諾されない場合は右に理由を付記願います。 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2年＿＿組＿＿番　生徒氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　㊞

緊急連絡先①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿続柄（　　）　緊急連絡先②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿続柄（　　）

※アレルギー・その他、配慮すべき点がありましたら、以下にご記入ください。食物アレルギーに関しては右の用紙に詳細を記入し、一緒にご提出ください。

図6　保護者宛旅行実施のお知らせと参加承諾書

第２学年保護者の皆様

2021 年 3 月 24 日
お茶の水女子大学附属高等学校
第２学年担任　十九浦・佐藤・沼畑

修学旅行実施にあたってのお願い

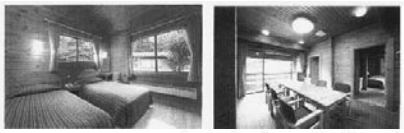
早春の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、修学旅行の参加承諾書のご提出ありがとうございました。期末考査後から修学旅行への期待を胸に生徒たちは本格的に準備を進めているところですが、旅行の安心・安全な実施に向けて、担任団一同一層の緊張感をもって万全の感染防止対策に努めてまいります。つきましては、以下に大学のコロナ対策室なら びに学校からのお願いと方針をお示しいたしますので、ご一読い ただき、保護者の皆様・各ご家庭におかれましても、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

1、感染防止対策
【旅行先での感染防止対策】
・不特定多数の生徒同士での濃厚接触を避けるため、部屋割・行動班・食事の際の座席等は極力同じメンバーでの編成・利用とします。
・バス車内は十分に換気がなされていますが、乗車中もマスクの着用、隣席同士での会話は最小限とし、座席の移動は不可とします。車内では水分補給を除き、お菓子等の飲食は控えることとします。
・旅行期間中の食事はビュッフェ形式ではなく、すべて卓盛りでの提供となります。また、座席は間隔を空け、会話も最小限にとどめるようにします。
・宿泊する部屋は 100 ㎡弱のコテージを 7－8 名で利用します。右図の通り、ツインベッドのある小部屋が４つあり、それぞれに風呂・トイレ・洗面スペースがついています。コテージ内での換気・マスク着用（就寝時を除く）を徹底し、中央にある共有スペースでの飲食や近距離かつ大声による対面での会話は控えることとします。
・風呂・トイレ・洗面スペースは２名で１つを共用とし、風呂・シャワーの使用後はバスタブの湯を抜き、洗い場ともに十分に洗い流すようにします。トイレは学校での利用時同様に、常時換起し使用後は蓋を閉めるなど、清潔に利用します。洗面スペースは１名ずつ使用します。
・ベッドは１人１台とし、ベッドの移動や交換、共有はせず、２泊とも同じものを利用します。
・上記事項について、掲示物や教員の巡回により注意喚起を行っていきます。なお、コテージ間の移動は不可とします。
・施設見学ではスタッフによる対面での一斉解説ではなく、１人ずつ配布される音声ガイドを使用します。また、見学や体験学習におけるグループ編成は少人数を原則とし、３密の回避、会話も最小限にとどめるようにします。
・その他、訪問施設や滞在先の感染防止対策については旅行業者とともに事前に確認をしています。ご心配・ご不安な点がございましたら、各担任までご相談ください。

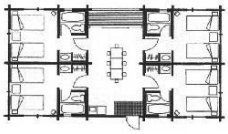
【ご家庭における感染防止対策（お願い）】
・出発１週間前（4/7）より、同居するご家族の皆様も毎日の検温をお願いします。生徒は学期中同様、春休み中も検温を継続し、moodle に記録してください。検温忘れ・記録漏れのある場合は旅行に参加することができません。
・休日や春休み中の不要不急の外出はなるべくお控えください。
・日常生活における換気、３密の回避、マスクの着用、手洗い・手指消毒等の徹底に加え、ご家庭内でも食事中やマスクなしでの対面での会話にも十分お気をつけください。

2、旅行期間中のお願い
・旅行期間中、生徒本人に発熱や体調不良等が生じた場合は参加承諾書に記載いただいた緊急連絡先へご連絡いたします。状況によっては現地までお迎えに来ていただくことがあります ので、ご協力をよろしくお願いいたします。

【宿泊部屋イメージ】



プリンスコテージ８名用（95 ㎡）



3、旅行の参加・実施の可否について
・出発１週間前（4/7）～出発当日（4/14）に生徒本人または同居するご家族に体調の異変がみられた場合は参加を自重していただきますので、予めご了承ください。また、濃厚接触者に該当した場合は保健所の指示に従います。
・出発日が含まれる緊急事態宣言の延長や再発出、校内におけるクラスター発生等、不測の事態によっては出発直前でも中止の判断をさせていただく場合があります。

4、キャンセル料・保険について
・旅行がキャンセルとなった場合のキャンセル費用は以下の通りです（参加者の変動によって、多少前後することがあります）。
旅行出発日の 21 日前（3/24）まで・・・・・・企画料金の額　（約 1,600 円）
旅行出発日の 8 日前（3/25～4/6）まで・・・・旅行代金の 20%　（約 10,500 円）
旅行出発日の 2 日前（4/7～4/12）まで・・・・旅行代金の 30%　（約 15,800 円）
旅行出発日の 前日　（4/13）まで・・・・・・旅行代金の 40%　（約 21,000 円）
旅行出発日の 当日　（4/14）まで・・・・・・旅行代金の 50%　（約 26,300 円）
旅行開始後 ・・・・・・・・・・・・・・・・旅行代金の 100%（約 52,500 円）
・旅行中または旅行後２週間以内に新型コロナウイルスに罹患し発病した場合、その本人等にお見舞金が支払われます。
・緊急時の際の保護者現地送迎費用は旅行参加者保険が適用されます。
・保険の適用にあたっては保険会社の定める約款に基づき判断されるため、場合によっては保険が適用されないケースがあります。

5、その他
・旅行期間中は教員以外に、外部の看護師１名と旅行社添乗員２名が帯同します。
・添乗員は旅行社作成の「教育旅行における新型コロナウイルス対策について －国内版－」に基づいて添乗業務を行います。
・アレルギーについては事前にご申告いただいた内容に限り、対応いたします。それ以外は自己対応となります。
・詳細につきましては、出発前に配布される「修学旅行のしおり」をご覧ください。
・修学旅行不参加の場合は出席停止扱いとなります。
・その他、ご心配・ご不明な点、ご相談等がございましたら、各担任までお尋ねください。

図７　保護者宛旅行実施にあたっての協力依頼書

11. 有事への備え

例年，引率体制は管理職含む教員６名と看護師１名としているが，今回は旅行の規模縮小のため，教員は５名とした。養護教諭は校務があるため，看護師は外部に委託しており，今回の旅行でも看護師を１名帯同させ，各担任を中心に引率教員はアレルギーや持病等の生徒情報を共有し，有事に備えた。さらに，旅行業者から提案のあったコロナ関連の保険（例えば，現地にてコロナ発症時に保護者の送迎にかかる費用を負担するものやコロナ感染者により，旅行を中止・中断する際にかかるキャンセル料や諸費用を負担するもの等）に一通り加入し，得られる安心は備えておくこととした（資料 3）。

12. しおりの作成

ここまで急ピッチで準備を進めてきたが，下見が春休みに入る直前だったこともあり，なかなかしおりの作成に取りかかれずにいた。生徒には宿舎や大まかな行程等の確定事項は示してきたが，詳細なタイムテーブルや持ち物といった内容までは伝えられていなかった。

そこで，旅行委員に手分けさせ，春休みを利用してしおりの作成を指示した。しおりには注意事項の他に部屋割や行動班名簿，バス座席表，体験活動の選択コース等を掲載し，万が一，陽性者が出た際に濃厚接触者を追跡できるようにした（図 8）。

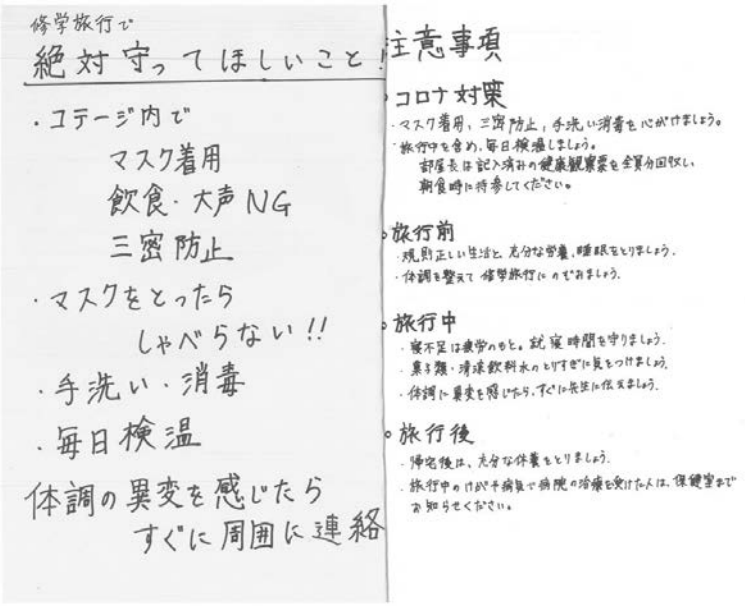


図 8　旅行委員作成のしおり（一部抜粋）

13. 出発 1 週間前を切って

暦は 4 月に入り，生徒たちは 3 年生へと進級し，気持ち新たに新年度を迎えていた。一方で，4 月上旬から世間ではコロナ感染者数に再び増加傾向の兆しが見られていた。そして，4 月 12 日より東京都に（加えて沖縄県にも）再度，まん延防止重点措置が発出予定と報道された。

せっかくここまで来たのに，修学旅行は中止となってしまうのか…と，暗雲が立ち込めた。至急，対策室に連絡をとり，まん防期間に入ってしまった場合，修学旅行の実施は可能か否かを確認した。すると，高校 3 年生という発達段階で感染防止対策の遵守が期待できること，ここで旅行を中止した際の生徒たちの精神的ダメージや今後の教育活動に与える影響は甚大であること等を考慮し，実施を了承してもらえることとなった。

ただ，修学旅行でクラスターが発生したというニュースも耳にしていたことから，行くからには絶対に感染者は出せない！という，より強いプレッシャーを感じたのは言うまでもない。加えて，出発 1 週間前に保護者を名乗る匿名の方から「修学旅行を中止してほしい，再度考え直してほしい」といった電話があった。事前に参加承諾書を取っていたが，まん防の状況下での実施に不安をおぼえたのかもしれない。一定のキャンセル料はかかるが，心配な生徒・保護者は出発前であればいつでも参加をキャンセルすることができたため，学年団としては一意見で旅行を中止にするという判断はしなかった（最終的にドタキャンした生徒もいなかった）。こうして，紆余曲折を経て旅行の実施が正式決定したのは出発から 1 週間を切ったタイミングだった。生徒たちに，「なんとか無事に旅行に行けそうだ。」と伝えると，拍手と喝采があがった。

14. 修学旅行の様子

ここからは旅行の記録として，訪問・滞在先での行動や食事の様子について，画像を交えながら紹介する。

14.1. いざ出発

出発当日の朝，嵐のようなあいにくの空模様で，スーツケースを引く生徒たちはびしょ濡れになりながら集合場所の学校に到着した。幸い遅刻・欠席する生徒はおらず，バスは定刻通りに出発した。生徒たちは車内での会話もほどほどに，騒ぐことなく，大人しく過ごしていた。途中のサービスエリアではトイレ休憩だけで，売店で飲食物を買って食べたり，飲んだりすることもなかった。

14.2. 富岡製糸場

世界遺産の富岡製糸場に到着する頃には，雨も上がり天気はすっかり回復していた。ここでは，スタッフによる対面での一斉解説ではなく，1人1台の音声ガイドを手に，解説を聞きながら行動班単位で施設見学を行った。裏庭には八重桜が満開となっており，花見や記念撮影を楽しんだ。

14.3. 初日昼食

初日の昼食会場では黙食をきちんと実践できるか心配していたが，旅行委員がいただきますの挨拶時に，黙食の呼びかけを行う等，高い意識をもって臨んでいたのが印象的だった。画像の通り，座席は十分に間隔を空け，横並び席は全員が一方向を向いて着席した。円卓席は向かい合っているものの，食事中は一切の私語もなく，聞こえてくるのは食器の当たる音と咀嚼音のみという，これまでに経験したことのない異様な雰囲気での食事となった。思わず苦笑いしてしまう生徒もいたが，緊張感のある中でしっかり感染防止対策を遵守することができていた。

14.4.　こんにゃくパーク

次に，群馬県の名産品であるこんにゃくの製造工場こんにゃくパークを訪れた。こんにゃくをはじめ白滝，ゼリー等の製造工程を間近に見学することができた。無料のこんにゃくバイキングの試食コーナーがあったが，今回は感染防止のため試食は見合わせることとした。ゼリーの詰め放題に挑戦したり，足湯を楽しんだりする生徒の姿がみられた。

14.5.　宿舎到着

軽井沢プリンスホテルに到着すると，部屋割に分かれてコテージにチェックインした。1 軒のコテージは約 100 ㎡の広さがあり，その中にツインベッドの置かれた 4 つの小部屋が存在する。各小部屋にはそれぞれにバス・トイレ・洗面台が用意されている。1 軒のコテージを 7 ～ 8 名で利用し，1 つの小部屋を 2 名で使用する。4 つの小部屋をつなぐように，コテージ中央には広い共有スペースがあり，部屋のメンバーで団欒したり，交流したりすることができるようになっている。また，屋外にはテラスが併設されており，外の景色を見ながらくつろぐこともできる。空調設備も整っており，24 時間換気と暖房で快適に過ごせるようになっている。宿舎の詳細は図 7 及び後述の 14-17. を参照されたい。

生徒たちは自由時間を利用して，コテージ内でゆっくりしたり，ホテル敷地内の散策に繰り出したり，有料のアクティビティ（卓球等）で遊んだりと夕食までのフリータイムを思い思いに楽しんだ。なお，コテージから徒歩圏内にアウトレットモールが併設されていたが，感染リスクを減らすため，やむなくアウトレット施設への立ち入りは禁止とした。

14.6.　夕食（テーブルマナー）

初日の夕食は和食，2 日目の夕食は洋食のテーブルマナーとした。テーブルマナーを導入した理由は教育的な側面もさることながら，黙食が期待できたからである。慣れない作法に戸惑いながらも，隣同士で動きを確認し，恐る恐る食べている姿が微笑ましかった。円卓にはアクリル板で個々のスペースに仕切られ，緊張感とスローペースの中での食事だったため，食べた気分になれなかった生徒もいたようだったが，講義を聞きながら，じっくりと時間をかけて，厳かに食事が進められた。なお，プリンスホテルの和食テーブルマナーは本校が初めての利用団体とのことだった。

初日は夕食会場からコテージに戻る際，空を見上げると満天の星が輝いていて，「綺麗な星空を見たい」という生徒の希望が叶い，感激した様子だった。

14.7.　2,3 日目朝食

食事会場の入口に連絡用のホワイトボードを設置し，ツアーデスクとした。生徒には，毎朝必ずここで連絡事項を確認するようにさせた。担任は入口で待ち構え，コテージ単位で健康観察票を回収し，健康チェックと点呼を行った。生徒は検温と手指消毒を済ませてから，食事会場に入り，食事を受け取る流れとした。

14.8.　伝統工芸体験学習

伝統工芸の体験学習は，みなかみ町にあるたくみの里とよばれる集落内の各工房と月夜野びーどろパーク（ガラス工房）に分かれ実施した。事前に生徒の希望をとった結果，ガラス絵付け 60 名，陶芸 27 名，和紙すき 16 名，お面づくり 8 名，こんにゃくづくり 5 名，草木染め 3 名に分かれ，それぞれの体験工房にお邪魔し，制作・創作活動に取り組んだ。たくみの里では原風景に囲まれた中に工房が点在し，趣のある古民家で職人さんのご指導を仰ぎながら，伝統的なものづくり体験をさせていただいた。

14.9.　カーリング体験

軽井沢アイスパークにてカーリング体験を行った。ほとんどの生徒が初体験だったが，氷に慣れるところから始まり，カーリングのルール，ストーンの滑らせ方やスイープの仕方を教わった後，実際にゲームを行った。ハウスにストーンをうまく寄せられたり，相手ストーンをはじき出したりした場面では，まさに氷上で表情がほころぶ姿がみられた。ケガをすることなく，和気藹々と皆で楽しく体を動かした。

14.10.　旧軽銀座散策

旧軽銀座の散策を行った。普段であれば，観光客で賑わうスポットであるが，さすがにこの時は人手がほとんどおらず，閑古鳥が鳴いていた。開いている店も少なく，コロナ禍で観光地が苦境に立たされている現実を垣間見た気がした。オシャレな旧軽の雰囲気を半分ほど味わい，限られた土産物店での買い物を楽しんだ。

14.11.　コテージ内での様子

2 日目は日没にコテージに帰着し，すぐに夕飯となった。洋食のテーブルマナーの夕飯後はコテージでのフリータイムとした。感染防止対策のチェックと声かけのために巡回を行ったところ，コテージ内で歓談したり，カードゲームをしたり，勉強したり，冷え込む屋外に出たりと，教員の目が行き届かないところでも感染防止対策を意識しながら，思い思いに修学旅行最後の夜を楽しむ様子がうかがえた。

14.12.　鬼押出し園

迎えた最終日。朝食後，コテージをチェックアウトし，鬼押出し園の散策からスタート。標高が高く，極寒の中での見学となったが，浅間山の噴火でできた溶岩や噴石を目の当たりにし，自然の威力をまじまじと実感させられた様子だった。

14.13.　最後の昼食といちご狩り（原田農園）

原田農園の食事会場にて，学年が揃って食べる最後の昼食となるすき焼き御膳を食

べた。最終日ということもあって，生徒も緊張の糸が緩んできたのか，食事中に私語が聞こえるようになった。教員はしばらく静観していたが，見かねた旅行委員がマイクで私語を慎むよう注意する一幕があり，お茶高の自主・自律の精神を体現する場面がみられた。

昼食後，同農園が営むいちご園へ移動し，生徒から最もリクエストの多かったいちご狩りをした。いちご狩りは20分間の食べ放題で，昼食後にもかかわらず，50個以上食べた猛者も現れ，甘いいちごを思う存分，堪能することができた。

14.14.　河岸段丘（棚田）見学

修学旅行は終盤を迎え，最後に河岸段丘を見学した。群馬県沼田市は日本一美しい河岸段丘の地形といわれており，ビュースポットでバスを降りた。学年団に地理の教員がいることから，全員で河岸段丘の構造を確認しながら，教員の解説を聞いて理解を深めた。

また，ちょうど学年全体が密にならずに集まることができる場所だったため，暗くなる前にここで早目の閉校式を行うこととした。校長より講評の言葉，旅行委員の挨拶，生徒全員で今回の旅行をサポートしてくれた旅行業者の添乗員及び看護師に謝意を伝えた。

14.15.　無事帰校

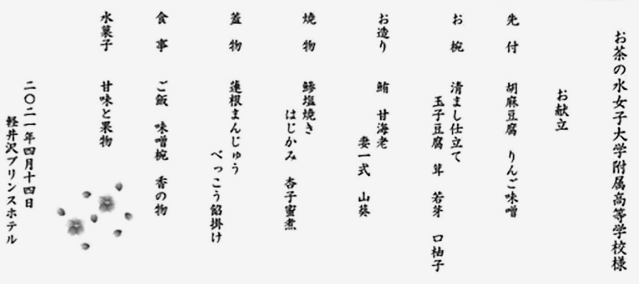
途中，ららん藤岡でトイレ休憩に立ち寄ったが，いちご狩りで食べ過ぎたこともあって，皆トイレが近くなり，急遽トイレ休憩をもう1回多く挟むことになった。そのため，予定していたよりも遅れての帰校となったが，3日間大きなケガや事故，病院のお世話になるような症例もなく，全員無事に帰ってくることができた。大きな荷物と思い出を抱えながら，各自帰宅の途に着いた。

14.16.　旅行中の食事一覧

初日昼食
こしね汁ほか冨岡郷土料理

2日目昼食
釜飯・鍋焼きうどん

3日目昼食
きのこそば・牛すき焼き御膳



お茶の水女子大学附属高等学校様

お献立

先付　胡麻豆腐　りんご味噌

お椀　清まし仕立て
玉子豆腐　芽　若芽　口柚子

お造り　鮪　甘海老
柴一式　山葵

焼物　鰆塩焼き
はじかみ　杏子蜜煮

益物　蓮根まんじゅう
べっこう餡掛け

食事　ご飯　味噌椀　香の物

水菓子　甘味と果物

二〇二一年四月十四日
軽井沢プリンスホテル

初日夕食　　和食テーブルマナー（お品書きのみ）

お茶の水女子大学附属高等学校様

MENU

スモークサーモンとプチ・サラダ　彩のヴィネグレット

パンプキンスープ

白身魚のスパイス風味チーズ焼き　クスクス添え

ローストポーク　彩野菜とハニーマスタードソース

スフレチーズケーキ　信州ブルーベリーソース

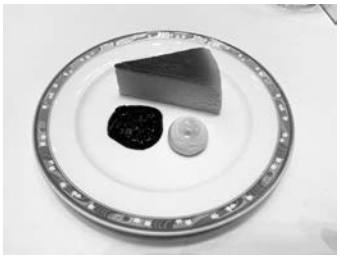
パン

コーヒー

2021 年 4 月 15 日(木)

Prince Hotel
Karuizawa

2日目夕食
洋食テーブルマナー



2,3日目朝食
和洋食ビュッフェ

14.17.　宿舎の様子

ホテルエントランスとメインロビー

コテージ棟周辺

コテージ内部（左から 2 人部屋・洗面所・バストイレ・屋外テラス）

ホテル敷地内より浅間山を望む（奥側）

宴会場「長野」（食事会場）

15. 修学旅行後の経過観察と生徒の様子

旅行を終えてほっとするのも束の間，潜伏期間から発症まで2週間といわれるコロナ（デルタ株）の症状が出ないか，ヒヤヒヤしながら経過観察を行ったが，幸いにも発症した生徒はいなかった。こうして，旅行前・旅行中・旅行後を通して誰一人と発症者を出すことなく，修学旅行を無事に完遂することができた。後日，対策室に修学旅行を滞りなく実施できたことを報告し，労いの言葉を頂戴した。

一方，学校生活を再開した生徒たちは旅行を通じて深めた友達との絆，得られた楽しい思い出を胸に，表情は満足感・充実感に溢れ，元気で活発な姿がみられた。学習面だけでなく5月の体育祭やその後の学校生活でも最終学年としての自覚･意欲･気概･パワーを存分に発揮したのは言わずもがなである。

16. 生徒アンケートの調査結果

今回，我々と同時期に修学旅行を実施した学校は全国を探しても少ないのではなかろうか。というのも旅行業者に聞いたところ，この時期は修学旅行だけでなく，日帰りバスツアー等も軒並みキャンセルだったとのことで，振り返ってみれば観光名所，サービスエリアで観光バスを全くと言っていいほど見かけなかった上，高速道路もガラガラだった。まん防によって人流が抑制されていたのも頷ける。そんな貴重な修学旅行を終えて，生徒にアンケート調査を実施した。参加者119名中115名が回答し，回答率は96.6%だった。

16.1. 旅行全般について

旅行全般について以下の質問を尋ねた。いずれも，4…非常にそう思う　3…ややそう思う　2…あまりそう思わない　1…全くそう思わない　のうち，あてはまるものを1つ選んでもらった。

質問項目	非常にそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
①実施の判断は適切だった	67.9%	27.7%	4.5%	0%
②実施時期は適切だった	67.0%	28.6%	4.5%	0%
③旅行先（軽井沢）は適切だった	60.7%	34.8%	4.5%	0%
④泊数（2泊3日）は適切だった	58.9%	35.7%	5.4%	0%
⑤感染防止対策は適切だった	68.8%	25.0%	6.3%	0%
⑥出発前の健康観察は適切だった	77.7%	17.0%	5.4%	0%
⑦旅行中の健康観察は適切だった	75.9%	20.5%	3.6%	0%

①実施の判断，②実施時期，③行き先，④泊数ともに約95～96%が肯定的な回答だった。⑤感染防止対策や⑥⑦健康観察についても「適切だったと思う」という回答が9割を超えた。「非常にそう思う」の回答率が低かった④泊数については，4泊から

2 泊に短縮したことへの不満と 2 泊ではなく，せめて 3 泊したかったといった希望が反映されていると思われる。

16.2.　各行程の満足度について

次に各行程の満足度について尋ねた。いずれも，4…非常に満足　3…やや満足　2…やや不満　1…非常に不満　のうち，あてはまるものを 1 つ選んでもらい，そのうち満足度の高かったものと低かったものについては理由もあわせて回答してもらった。

行程・アクティビティ	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
①富岡製糸場	51.8%	38.4%	8.9%	0.9%
②こんにゃくパーク	46.4%	42.9%	9.8%	0.9%
③伝統工芸体験 ※	59.5%	35.1%	4.5%	0.9%
④カーリング体験	82.1%	15.2%	2.7%	0%
⑤旧軽銀座散策	50.9%	31.3%	15.2%	2.7%
⑥鬼押出し園	59.8%	32.1%	6.3%	0.9%
⑦いちご狩り	65.2%	27.7%	6.3%	0.9%
⑧河岸段丘見学	49.1%	39.3%	8.9%	0%
⑨売店や土産物店での買い物	60.4%	34.2%	5.4%	0%
⑩バスレク	43.8%	45.5%	9.8%	0.9%
⑪自由時間	73.2%	22.3%	3.6%	0.9%

どの行程においても約 8 ～ 9 割を超える生徒が「満足」と回答した。最も満足度の高かった行程は，④カーリング体験で，運動の苦手な生徒も楽しく取り組めたこと，オリンピック等でテレビ観戦した競技を体験でき，身近に感じられたことを理由に挙げた生徒が多かった。続いて満足度が高かったのは，⑪自由時間だった。受験生から一時的に解放され，友達との交流や非日常を味わうことで，リフレッシュできたことが満足度につながったといえよう。

一方で,「不満」の回答の多かったものは,⑤旧軽銀座散策であり,コロナ禍でシャッターの閉まっている店舗が多く，活気や賑わいを感じられず，見どころが少ない上，食べ歩きもできなかったといった理由を挙げた回答が多くみられた。また,「非常に満足」の回答率の低かった⑩バスレク，②こんにゃくパークについては感染防止対策により，レクの内容が制限されたり，試食ができなかったりしたことを主な理由に挙げていた。また以下に，③伝統工芸体験の体験内容別の満足度を示す。

③伝統工芸体験	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
A ガラス絵付け	53.2%	44.7%	2.1%	0%
B 陶芸	66.7%	33.3%	0%	0%
C 和紙すき	20.0%	53.3%	20.0%	0%
D お面づくり	83.3%	16.7%	0%	0%
E こんにゃくづくり	100.0%	0%	0%	0%
F 草木染め	66.7%	0%	33.3%	0%

C 和紙すき，F 草木染めを除いて，「満足」と答えた生徒がほとんどだった。A ガラス絵付けと B 陶芸は数か月後に仕上がった作品が学校に届き，生徒は喜んで持ち帰っていた。「やや不満」の回答の多かった和紙すきや草木染めを体験した生徒のコメントからは，イメージしていた体験内容と違った，高校生には簡単すぎて物足りなかったといった声が聞かれた。

16.3. 食事の満足度について

食事の満足度について，同じく 4 段階での回答とその理由について答えてもらった。

食事内容	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
初日昼食（こしね汁等の冨岡郷土料理）	51.4%	40.5%	8.1%	0%
初日夕食（和食テーブルマナー）	52.7%	30.9%	14.5%	1.8%
2,3 日目朝食（和洋食ビュッフェ）	80.9%	19.1%	0%	0%
2 日目昼食（釜飯・鍋焼きうどん）	48.6%	37.8%	11.7%	1.8%
2 日目夕食（洋食テーブルマナー）	74.8%	12.6%	9.0%	3.6%
3 日目昼食（牛すき焼き・きのこそば）	49.6%	33.3%	12.6%	4.5%

すべての食事において，「満足」が 8 割を超えた。特に，ホテルの朝食ビュッフェは 80% 以上が「非常に満足」と答え，自分の食べたい物を選んで好きな量を食べられたこと，メニューが豊富だったことを理由に挙げていた。洋食のテーブルマナーも約 75% が「非常に満足」と回答した。初めてコース料理を食べた，高級感を味わえたといった感想がみられた一方で，和食のテーブルマナー，3 日目昼食については「やや不満」「非常に不満」と答えた生徒が約 16 ～ 17% にのぼった。理由には，テーブルマナーに時間がかかりすぎた（そのため自由時間がなくなった，料理が冷めてしまっていた），量が少なかったといった記載があったほか，3 日目の昼食についてはご飯とそばのセットで炭水化物が多かった，いちご狩りの前だったので軽食でよかったといった回答がみられた。

16.4. 宿泊施設の満足度について

宿泊したコテージについての感想を自由記述で回答してもらった。一部抜粋したも

のを紹介する。

【良かった点】

- 2 人ごとに水回りの設備があるのは混雑することがなく，快適だった。（複数回答）
- 交流もしやすく，またお風呂を各自のタイミングで入れて非常に快適だった。（複数回答）
- 他のホテル宿泊客に気を遣わず，楽しく過ごせた。（複数回答）
- コテージに泊まるのは初めてだったのでワクワクしました。空調はとても良かったです。（複数回答）
- コテージの周りの自然環境がとってもよかった。空気がきれいで朝の散歩も夜の星空も素敵だった。（複数回答）
- 食事会場まで歩くときに見た星がきれいだった。（複数回答）
- オレンジ色の照明と木の温もりを感じて，過ごしやすかったし楽しかったし，すごく落ち着けた。
- 少人数で泊まったので感染の心配が少なかったことや，コテージ内に 2 人ずつの部屋があり，ドアも閉められるようになっていたため，自分のペースで過ごすことができたことが良かった。景観もよくリフレッシュできた。
- 個人が使える広さが大きく快適だった，きれいで居心地が良かった，軽井沢感があって最高だった。
- 仲の良い人とシェアハウスできたみたいで楽しかったです！ベッドが気持ちよかった。
- 2 人部屋と共有スペースを自由に行き来でき，自分の好きなように時間を使えた。
- 夜寝たい人と起きていたい人が自由に過ごせる空間だったと思う（寝たい人はドアが閉められた）。
- オートロックで安心だし，家のようにくつろげたので，とてもよかったと思います。
- 室内は暖かく，お湯もあったりとサービスが充実していて過ごしやすかった。
- 寒い軽井沢において，コテージはとてもあたたかい幸せな場所だった。共有スペースの大きな机も良かった。みんなで沢山話せて沢山遊べた。
- 学校でこんなに良い所に泊まれるのか！と驚いた。とてもきれいで一生泊まっていたかった。
- アメニティーのシャンプー，リンスが最高だった。

【悪かった点】

- 食事会場からの帰り道が真っ暗だったのは少し危ないと思った。夜，コテージに戻るのが怖かった。（複数回答）
- バス，トイレ別の方が使いやすかった。バスカーテンの使い方を分かっていない人がトイレ周りを水浸しにしていた。そのレクチャーも必要なのでは？と思った。（複数回答）
- ホテルから遠く先生の目も届かなかったはずなので防犯面は不安だった。（複数回答）
- 部屋の照明が暗かった。（複数回答）
- 風呂の温度調節が難しかった。（複数回答）
- スーツケースを本館からコテージまで運ぶのは少し大変でした。（複数回答）
- 食事会場までの道のりは少し遠く，忘れ物をしたときや戻りたいときに少し不便だった。（複数回答）
- 窓を閉めると暑すぎて，窓を開けると寒すぎた。
- 景観はコテージによって差があった。
- トイレの音がもれるのが気になりました。
- 窓から中の様子がけっこう見えていた。

概ね好評だった。細かい点で不満や不便に感じる面はあったものの，コテージ内に共有スペースと個室とが共存しており，皆と過ごせる中にプライベート感も確保され，各自で思い思いの過ごし方ができたこと，非日常の空間でクラスメートと寝泊まりできたことに満足度の高さがうかがえた。悪かった点として，防犯面やユニットバス，動線・移動距離等の不安や不満の声が散見された。

16.5.　感染防止対策について

旅行中の感染防止対策について，自身の取り組みを振り返り，自己評価をしてもらった。4…しっかりできた　3…まずまずできた　2…あまりできなかった　1…まったくできなかった　の 4 段階で回答してもらった。

	感染防止対策	しっかりできた	まずまずできた	あまりできなかった	まったくできなかった
バス車内・乗降時	A 手指消毒	72.3%	23.3%	3.5%	0.9%
	B マスク着用	95.5%	4.5%	0%	0%
	C 会話を控える	49.1%	46.4%	4.5%	0%
食事時	A 手洗い・手指消毒	89.3%	9.8%	0.9%	0%
	B 食事前後のマスク着用	95.5%	4.5%	0%	0%
	C 会話を控える	69.6%	30.4%	0%	0%
コテージ利用時	A 手洗い・手指消毒	81.3%	17.9%	0.9%	0%
	B 入浴・就寝時以外のマスク着用	87.5%	11.6%	0.9%	0%
	C 飲食を控える	74.1%	25.9%	0%	0%
	D 密を避ける	66.1%	30.4%	3.6%	0%
	E 向かい合っての会話や大声を控える	60.7%	34.8%	4.5%	0%
	F トイレの蓋を閉めてから流す	90.2%	9.8%	0%	0%
	G 入浴後に浴室・浴槽を洗い流す	80.4%	15.2%	4.5%	0%
	H 歯磨きは単独かつ洗面所で行う	87.5%	9.8%	2.7%	0%
見学・体験時	A 手洗い・手指消毒	91.1%	8.0%	0.9%	0%
	B マスクやフェイスシールドの着用	96.4%	3.6%	0%	0%
	C 向かい合っての会話や大声を控える	75.0%	24.1%	0.9%	0%
	D 密を避ける	74.1%	23.2%	2.7%	0%
その他（自由記述）	・コテージの換気をした。（複数回答） ・注意喚起をした。（複数回答） ・ゴミやマスクを袋に入れて捨てるようにした。（複数回答） ・使用済みマスクはビニールに入れて持ち帰った。 ・飲みかけのペットボトルが誰のものか分かるように印をつけた。 ・ソーシャルディスタンスを意識した。 ・私物を共有しないようにした。				

いずれの項目においても「しっかりできた」「まずまずできた」の回答が 95% を超えた。教員側から口酸っぱく指導したわけではなく，旅行委員をはじめ生徒たち自身で意識高く取り組めたことに価値を感じている。一人一人が感染防止対策に努め，確実

に実行した結果，一人として発症者を出さなかったのは誇らしい限りである。

ただ，細かく見ていくと「しっかりできた」の数値が低かった，バス車内・乗降時での会話を控えるが半数弱，コテージ利用時の会話・大声を控える，密を避けるが6割台にとどまった。いずれもペアや集団で長い時間を共有していることや物理的な条件等から，これらの結果はある程度は致し方ないと捉えている。

16.6.　グルーピングについて（自由記述）

行動班・部屋割・バス座席等，固定のメンバーで組んでもらうことで濃厚接触者を増やさないような配慮をしたことについて，意見・感想を回答してもらった。

- 感染者を増やす心配がなく良かったと思う。(複数回答)
- 感染防止対策としては良かったが，正直色々な人と関われなかったのでさみしかった。(複数回答)
- 固定メンバーとは仲良くなれた。意外とそれ以外の子とも交流できたので良かった。
- 部屋班８人よりも色々な人と接していた気がして（伝統工芸など），ある程度までしか限定できていなかったかもしれない。
- クラスをまたいで自由なメンバーになりたかった。(類似回答多数)
- 他のグループやメンバーと関わりにくく，少し物足りなかった。(類似回答多数)
- 新しい友達は増えず，このまま卒業するのは悲しい。
- 正直，行動班は途中でばらけて他のグループやクラスと合流してしまったので意味がなかったのではないかと思う。
- カーリングの班や体験に行くときのバスの座席など固定になっていないものがあった。

メンバーを固定し，不特定多数との接触の機会を減らしたことで，感染防止対策につながったと前向きに捉える生徒が多かった。同じメンバーと一緒で濃い時間を過ごせたり，より仲が深まったりしたといった肯定的な意見があった一方で，他の友達・クラスの子と交流したかったといった声もかなり多くみられた。一部，体験活動の場面や移動時および自由散策等において，他のグループとの混在や合流が生じてしまったが，完全に固定するのは限度もあったため，やむを得ないと感じている。

16.7.　旅行や学校行事を通じての学びや気づきについて（自由記述）

本校では例年，1年次の5月中旬に長野県の諏訪に生徒同士の交流・親睦を目的とした学年合宿を2泊3日で実施しているが，75・76回生は中止を余儀なくされた。74回生はコロナ前だったため，1年次の合宿を実施することができたものの，宿泊行事はそれ以来だった。さらに，2年次は行事がほぼ中止となってしまったため，今回の修学旅行を通じ，あらためて友達とのかかわりや昨年度と比較して再認識した点について，自由に回答してもらった。

- 行事は久しぶりでしたが，やはり楽しいなと思いました。学校行事の大切さを実感。(複数回答)
- 勉強から離れて友達と楽しく過ごすことでリフレッシュになり，よかったです。(複数回答)
- 一日中友達といる生活で新たな一面を知れ，心の距離が縮まりました。高校生活の思い出を

作ることで今後に向けて頑張ろうという気持ちになれました。（複数回答）
- 沖縄に期待していた分，残念な気持ちもありますが行けただけで本当に幸せです。（複数回答）
- あまり話したことがなかったクラスメートと仲良くなれた。（類似回答多数）
- かなり制約がある形でも，このように行事ができるのは，思い出にもなり，高校生活をしているという実感が湧いた。（類似回答多数）
- 友達といる時間がとても大切なものだと再認識しました。（類似回答多数）
- これぞ高校ライフ！と思い，とても楽しかった。1 番の思い出になりました ^_^
- 友達っていいな！高校生楽しいな！お茶高最高だな！
- 友達と共に学び，遊べる幸せを感じた。友達への信頼感が増しました。
- 皆で何気ないことを話し，笑い合うということがとても楽しかった…！
- 友達と過ごす時間の一瞬一瞬を大切に，今後もたくさん思い出を作っていきたいと改めて実感した。
- お茶高生はみんな自律している。
- 毎回毎回，修学旅行は今回が一番楽しかった！と言っているが，今回は特に一番楽しかった。
- おそらく高校生活最後の大きな思い出として，友達と旅行できて良かった。
- やはり行事のあるなしで学校生活の充実度が違うなと再認識しました。
- 久しぶりに友達と旅行して，そういった非日常を味わうことの楽しさを再認識した。
- 2 年生では何もできなかったので，行事ができて嬉しかった。
- 友達と一緒なら場所も関係なく，楽しいことが分かりました！
- 今までは行事を通して他の人との関わりを深めていたが，今年は旅行でそれができた。
- 今まで話したことのなかった友達と同じコテージで 3 日間過ごして，面白かったし刺激になった。
- コロナで閉塞的空間にいることが多くなっていた今，思いっきり羽を伸ばせる機会があったことが嬉しかったです。
- 感染予防に配慮していたからこそ，互いを気にかけることがいつもよりできた気がする。
- マスクをしたり，飲食時の会話をしなかったりと，制約はある中でも，十分友だちと仲を深めることができることが分かりました。
- 行事を実施することはもちろん，友達と楽しく過ごすことも 1 年生のとき以来だったので，制限はあったけれど，改めて普通に友達と関われることの幸せを感じた。
- 行事があると，モチベーションが保ててやっぱりあると楽しいなと思った。
- やっぱり行事を通して深まる絆は代えられない。

生徒の声より，コロナ禍となってから友達と過ごす時間に飢えている中，今回の修学旅行を通して，あらためて学校は授業をするだけのところではないと再認識するとともに，友達との交流が互いに幸福感や親密感を与え，それらが学校生活の礎になっていると語っている。加えて，生徒にとって行事は気持ちをリフレッシュしたり，リセットしたりする役割を果たしており，メンタル面での安定を図る上で必要であるとも答えている。これらの声は 2 年次に行った代替行事後のアンケート *4 でも共通して聞かれたことから，お茶高生にとって行事は，学校生活の充実に欠かせないものといっても過言ではなかろう。

16.8.　旅行全般で思い出に残ったこと，印象的だったことについて（自由記述）

旅行中に強く思い出に残ったことや印象的だった場面を回答してもらった。

- コテージでの自由時間が長くてゆっくりできてよかった。コテージでの語らい。
- 夕食のテーブルマナーで長い時間をかけて，礼儀作法を学んだのは印象的だった。
- 部屋でのおしゃべりが異常に楽しかった。
- 学校で普段忙しく過ごしていることを忘れて友達や先生とゆっくりできたのがとても楽しかったです。
- カーリングが思いの外，楽しかった。
- 食事がとにかくおいしかったです！
- 景色がとてもきれいだったこと。
- １日目の夜のコテージの帰りに見た星！きれいに見えて感動しました。
- いちご食べすぎた。
- 鬼押出しがとにかく楽しかった。
- 訪れた現地の方々がとても親切で，バスの外からお見送りなどをしてくれたこと。
- ２泊３日でこんなに体験ができると思ってなかったので楽しかったです！
- どれも印象的でした。不満はありません。

最も多かったのはコテージでの自由時間や友達とのおしゃべりだった。他にも夜の星空やカーリング体験，テーブルマナー等が挙げられた。どれも学校や日常では味わえない修学旅行ならではの体験だったといえよう。

16.9.　旅行全般で残念だったこと，不満に感じたことについて

旅行中に残念だったことや不満に感じた場面を回答してもらった。

- 班での自由行動の時間が少なかったこと。
- 食べ歩きができなかったこと。周りに誘惑だらけで辛かった。
- 旧軽で閉まっているお店が多かったこと。
- もっと長い（4泊５日くらいの）旅行が良かった。
- 食事が静かなのが残念でした。仕方ないけど…。
- 時間が押したこと。
- 試食がしたかった。
- 他クラスとも交流したかった。
- しおりに「カーリングの持ち物：長ズボン」との記載がほしかった。
- 全体的に見学・体験時間が短かったのが残念だった。
- アウトレットに行きたかった。
- 温泉に入りたかった。

コロナ禍での旅行で様々な制約が設けられ，我慢を強いてしまったのは致し方ないところである。また本番前に下見を実施したが，実際に現地に行ってみると対応が違ったり，店が閉まっていたりといった想定外のケースがあった。一部生徒に混乱を招い

てしまったほか，行程に多くのイベントを詰め込んだため，1つ1つにじっくり時間をかけることができず，慌ただしい思いをさせてしまったり，時間が押してしまったりした部分は反省点である。

16.10.　総合的な満足度について

最後に，修学旅行の総合的な満足度について尋ねた。いずれも，4…非常に満足　3…やや満足　2…やや不満　1…非常に不満　のうち，あてはまるものを1つ選んでもらい，理由もあわせて回答してもらった。

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
総合満足度	77.3%	22.7%	0%	0%

「非常に満足」と答えた生徒が77%だった。その理由を一部抜粋して紹介する。

- この時期に行けるだけで本当にありがたかったです！！最高の思い出です！！
- 奇跡的に修学旅行ができたことがうれしかったから。
- 沖縄には行きたかったけど軽井沢は軽井沢で本当に楽しかった。すごくリフレッシュできた。奇跡のタイミングで行けてよかった。行かせてくれてありがとうございました！
- コロナ禍で制限の多い中でも感染に配慮しつつ修学旅行を楽しめたから。
- 行けただけで満足。仲の良い人と非日常を味わえた感動は忘れられない。
- まん延防止が出ている中，行くことができ，思い出もできて楽しかった。
- 他校が日帰り近郊で済ます中，宿泊行事ができたから。
- このコロナ禍でできる，最大限楽しい旅だったと思うから。
- 行けた場所が多く，カーリング体験やテーブルマナーなど貴重な体験もたくさんできたので良かった。
- 友だちとの仲も深められ，活動内容も比較的楽しかったから。
- 行き先は関係なく，友達と寝食を共にする喜びを感じられたから。
- 楽しかったから。の一点張りで！最高でした！
- 先生方の英断のおかげでいくことができて受験前によい思い出ができました。
- 判断が厳しい中，実施してくださって感謝です。
- 感染予防をしっかりして，感染者が出ることなく，最大限に楽しめたから。
- 行きたかったところや，やりたかったことはあるけど，この情勢の中でできて，友達と泊まれただけで満足だった。
- 行けないかもしれないと思っていた修学旅行に行けて楽しかった。

次に「やや満足」と答えた生徒の理由を一部抜粋して紹介する。

- 思い通りとはいかなかったが，楽しく思い出はつくれたため。
- 様々なものが中止になる中で思い出を作れたから。
- 移動時間が長かった。
- 長野の自然史博物館を楽しみにしていた。
- 今まで話したことのなかった友達と接して色々なことが知れた。とても楽しく充実してたけ

ど，やはり 2 泊は短く感じた。

- 全体的に不満なんてなかったです。でも 1 つ挙げるなら，確かにためにはなりましたし，やってよかったとも思いますが，和食のテーブルマナーが長かった…
- 友達との時間が多くて楽しかったが，やはり自由な「食」がないのが非常にストレスだった。
- おおむね楽しかったが，所々楽しめていない人がいると感じた。

全体的に満足・感動・感謝のコメントが多くみられた。実施までの道のりは長く険しいものだったが，この状況下で今できる最大限の旅行を生徒たちに提供できたと担任団は自負している。そして，生徒だけでなく引率した我々もまた，コロナ禍でストレスフルかつ業務に忙殺される日々を忘れ，束の間の気分転換となったのは私だけではなかろう。

17. まとめ

コロナ禍での修学旅行は生徒たちにとって，多くの制約やルールの下で窮屈かつ不自由な旅行だったに違いない。思いきり羽を伸ばしたい気持ちをぐっと堪えて，マスクの着用や黙食，密の回避，手洗い・消毒といった感染防止対策に神経を尖らせなければならなかったのはストレスだっただろう。それでも，学校の中心的存在となるべき 2 年次にほとんどの行事が中止となり，部活動もまともにできず，我慢と落胆を強いられてきた引き換えに，少しでも高校生活の思い出づくりができたならば，担任団としては本望である。沖縄から急遽行き先を変更したため，訪問地に関する事前学習が不十分だったり，生徒のモチベーションを心配したりしていたが，「修学旅行」の名の通り，現地では楽しむだけでなく，意欲的に学びに向かう姿がみられたのは嬉しい限りだった。

一方で，我々教員に目を向けてみると，実施できるかどうか宙ぶらりな状況の中，準備には通常の修学旅行の 3 ～ 4 倍相当の時間と労力と決断力が求められ，相当な負荷だったのは言うまでもない。日々の感染状況を横目に実施を何度も諦めかけ，心理的・精神的にも負担や疲弊が少なくなかったのは付記しておきたい。

今回のまん延防止下での修学旅行は保護者の理解が得られた上に，本校が学年 120 名という規模だったからこそ実施できた側面もあるだろう。最終的には一人もコロナ陽性者を出すことなく，無事に修学旅行を終えられたことに心から安堵している。生徒の声にもあったように，行事でしか得られない体験や他者との交流，集団で何かを実践するための協調性や行動力，判断力が今後生きていく上で大切であることは教員以上に生徒の方が心得ているように感じた次第である。

コロナの出現から 2 年余りが経過した今もウイルスは変異を繰り返し，世界中で猛威を奮い続けている。今回の旅行で実施したバス車内・食事の円卓テーブルに設置したアクリル板やコテージ利用のリスク分散型集団生活はオミクロン株をはじめとする感染力の強いウイルスには，もはや対策としては不十分なのかもしれない。果たして以前のような通常の修学旅行を実施できる日が来るのは一体いつになるのだろうか。生徒にとって，長い人生のうち 3 年間という短く，かけがえのない貴重な高校生活・

青春時代である。コロナ禍における児童・生徒・学生の学習の保障が叫ばれる中，特別行事や課外活動も同様に，重きが置かれるべきではないかと考えさせられる。一日も早くコロナが収束し，これまでの日常生活・学校生活が戻ってほしい。旅行中の生徒たちの活き活きとした姿やマスク越しの笑顔に，そう強く思った次第である。

最後に，修学旅行を企画・サポート・添乗いただいた近畿日本ツーリストの權田絵美氏，寛大なご配慮のもと宿泊施設を提供くださった軽井沢プリンスホテル様，アンケート調査の集計作業をお手伝いいただいたお茶の水女子大学の稲田真子氏，修学旅行の引率ならびに写真提供をご協力いただいた本校教諭の朝倉彬氏，そして修学旅行の実施をお認めくださった本学コロナ対策室に謝意を示し，末筆としたい。

＜出典，参考・引用文献＞

1) 「高等学校学習指導要領解説　特別活動編」pp.88,93 文部科学省　2018 年 7 月
2) 「緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の発令期間と対象地域」
https://www.kwm.co.jp/blog/state-of-emergency/　2022 年 2 月 2 日閲覧
3) 「修学旅行のための沖縄案内」大城将保，目崎茂和　2014 年 5 月
4) 「コロナ禍における代替行事開催までの道のり−輝鏡祭行事ゼロの危機に直面して−」pp.92 ～ 95
佐藤健太　お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要 第 66 号　2021 年 6 月
5) 「旅行関連業における 新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく 国内修学旅行の手引き（第 4 版）」公益財団法人 日本修学旅行協会 HP
https://www.jata-net.or.jp/virus/pdf/2020_domesticschoolexcursionguide.pdf　2021 年 2 月 19 日閲覧
6) 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～ Ver.5」文部科学省 HP　2020 年 12 月 3 日閲覧
7) 「学校行事に関すること Q & A　問 2 修学旅行の実施について」文部科学省 HP
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00040.html#q2　2021 年 3 月 16 日閲覧
8) 「コロナ禍の修学旅行の参加実態調査」　損保ジャパン株式会社　2022 年 3 月 1 日閲覧
https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2021/20220217_1.pdf?la=ja-JP
9) 「沖縄修学旅行　防疫観光の手引き ～安全・安心な受け入れをめざして～」沖縄県・一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
https://education.okinawastory.jp/wpcontent/uploads/2020/09/70ce10d4074841f98e1778a473ad884f.pdf　2020 年 10 月 21 日閲覧

＜資料１＞ 令和３年度における修学旅行等の実施に向けた配慮について（文科省通達）

新年度を迎え、改めて修学旅行等の実施に向けた配慮をお願いするものです。

事　務　連　絡
令和３年４月１日

各都道府県教育委員会担当課
各指定都市教育委員会担当課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く各国立大学法人担当課
附属学校を置く各公立大学法人担当課　　御中
小中高等学校を設置する学校設置会社を
所轄する構造改革特別区域法第１２条
第１項の認定を受けた各地方公共団体の担当課

文部科学省初等中等教育局児童生徒課
教育課程課

令和３年度における修学旅行等の実施に向けた配慮について

これまで各学校や学校設置者においては、コロナ禍にもかかわらず感染拡大防止のための対策を講じつつ、子供たちのため教育活動を実施していただいてきたことに感謝申し上げます。

さて、新年度を迎え、各学校においては新たな年間計画に基づき、教育活動を開始されているものと思います。

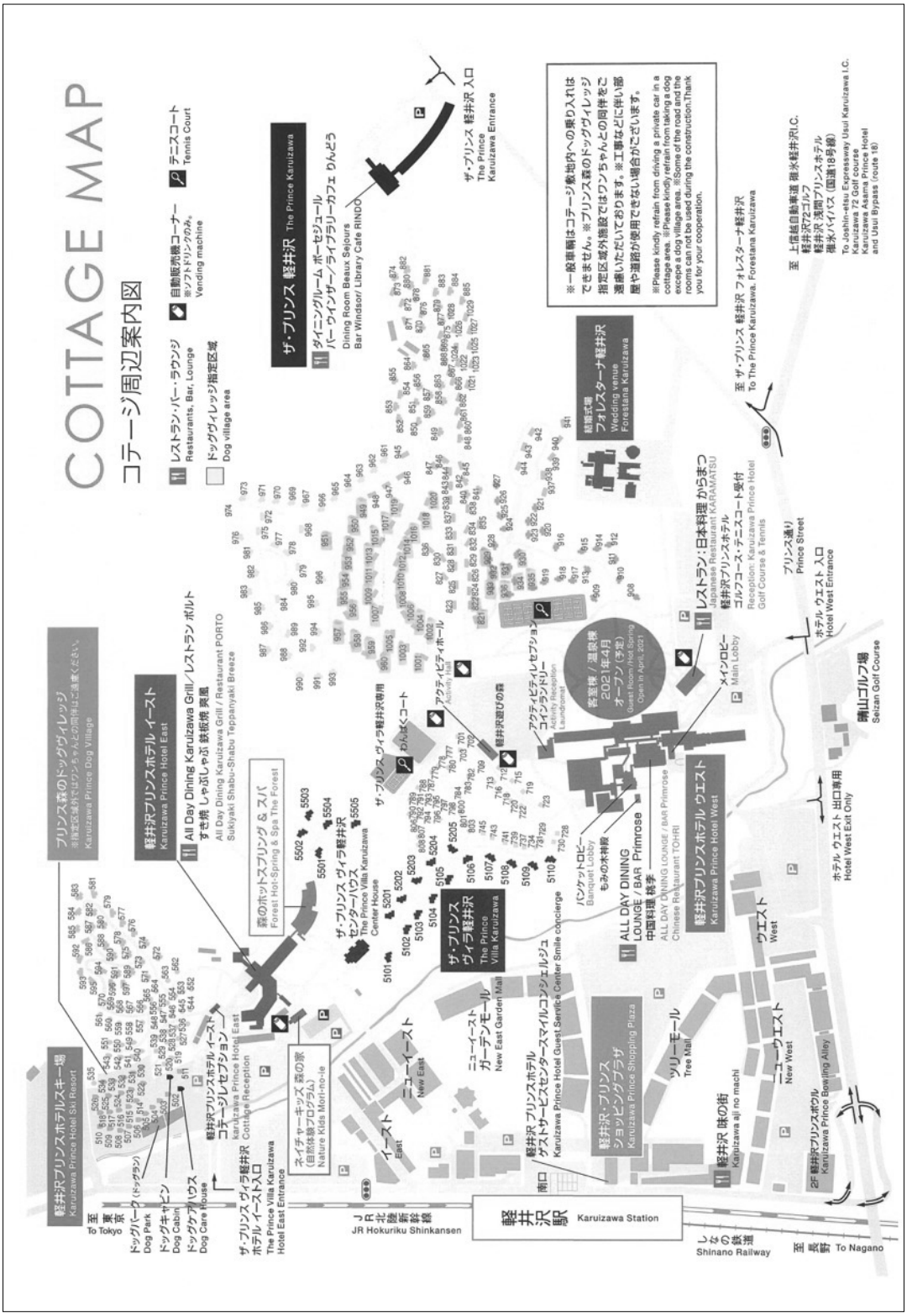
修学旅行等（修学旅行、遠足、社会科の見学、移動教室、体験活動などの校外で行う活動を含む。）は、子供たちの学校生活に潤いや、秩序と変化を与え、思い出に残るなど、有意義な教育活動です。現下の状況において、各学校や学校設置者におかれては、感染状況等を踏まえ、引き続き、感染防止策の確実な実施や保護者などの御理解・御協力を前提に、実施に向けての特段の配慮をお願いします。

なお、実施に当たっては、感染防止策の事前指導や、児童生徒や同居する家族等の健康観察を徹底するとともに、感染状況を見極めながら、仮に当初の計画どおりの実施が難しい場合であっても、近距離での実施や旅行日程の短縮など実施方法の適切な変更・工夫について検討するようお願いします。

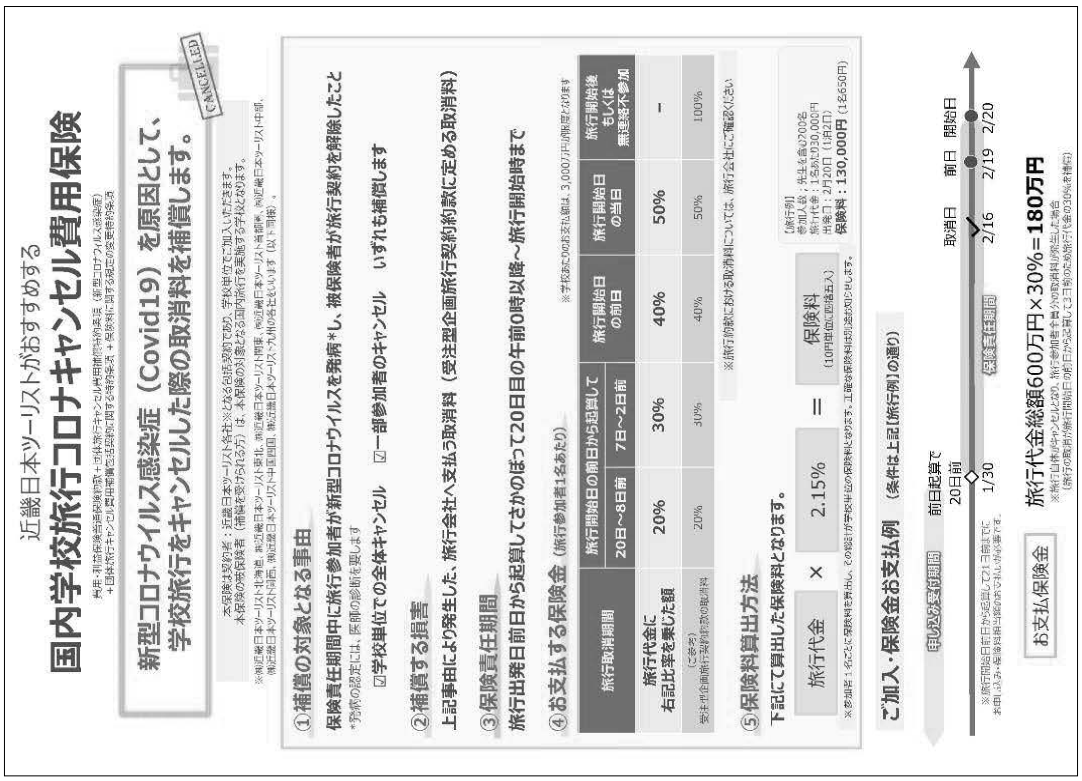
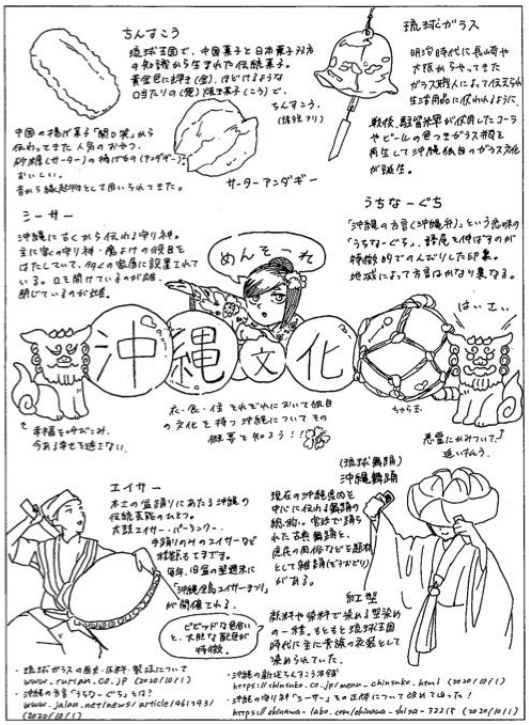
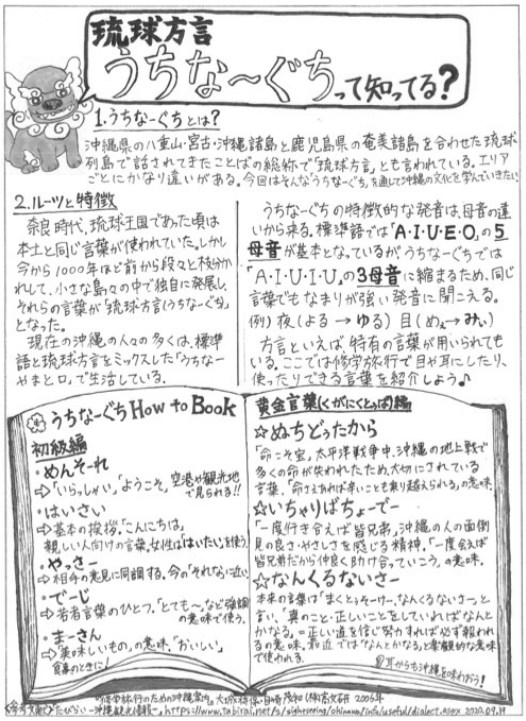
本件について、域内の市区町村教育委員会、所管又は所轄の学校及び学校法人に対しても、周知いただきますようお願いします。

（参考）文部科学省ホームページ
「Q&A（学校設置者・学校関係者の皆様へ）学校行事に関すること」
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00040.html

＜資料２＞ プリンスホテル コテージマップ（生徒は 949 ～ 960, 1001 ～ 1020 を使用）



＜資料３＞ 加入したコロナ保険の例（現在は内容の変更・取り扱いのない場合がある）



＜資料４＞ 沖縄事前学習ワークシート例